

## 順応同化の精神はチャレンジの精神

1期電気工学科卒；Ted Saeki（佐伯徹郎）

この世の中には南アフリカ出身でテスラ、スペースX、そしてツイッターとアメリカンドリームを地で行くイーロン・マスク氏や、二刀流で野球を改革中の大谷翔平選手のように筋金入りのチャレンジ精神とそれに見合った才能を持ち合わせた人がいます。でもそれは一握りで、殆どの人は普通に生きて行く為に、ありったけの才能で精一杯のチャレンジを続けています。

さて、僕の尊敬する経営の神様、松下幸之助翁が創業されたM社には遵奉すべき7精神があり、その一つが「順応同化の精神」です。僕も入社当初からこの7精神に馴染んできましたが、他の6精神と違って「順応同化」は流されろと云われてるようで若い頃は相いれない気持ちがありました。でも人生ほぼ一巡した今は、人は社会の中で生きるものであり順応同化して成長するものである。その為には、マスク氏や大谷選手と同等ではないにしても物凄いチャレンジを要するものであると思うようになりました。

思い返すに僕の人生は良く言えば順応して来た人生。悪く言えば流された人生でした。それでもここまで来れたのは順応する中で様々なチャレンジをして来たからだ、僕も頑張ってきたんだと自画自賛出来る歳になりました。

高専卒業後は隣町、西条のMK電子に就職、自宅通勤で、これが僕の人生！と思いました。ところがその一年後に会社から「ハワイの販社にカラーテレビのサービス体制の構築に行け」と言われてハワイに出向。その数年後にはMK電子が輸出から撤退でポジションが宙に浮き現地採用に切り替え、さらに数年後には「ハワイに骨を埋めるのなら販社本来の仕事に移れ」と言われて商品担当から営業、企画、宣伝、管理。そして今やキーワードになったサプライチェーンマネジメントも仕事の一部になりました。

時に応じて様々な仕事をし、モットーは広く浅くでした。周囲に振り回された適当な人生とも取れますが、その時々順応するためにチャレンジし続けた人生でもあったと思っています。

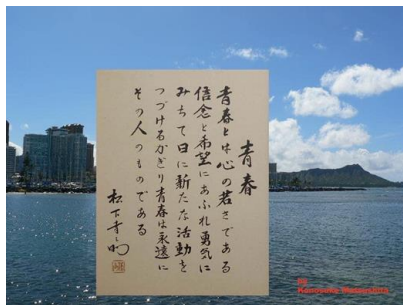
ハワイでサービス体制を作れ！と言われた時は技術部には居たけれど、技術屋のアシスタントのアシスタント程度。英語は高専3年生の時に赴任された井門先生の発音が日本人離れしててびっくりした程度で話せず状態。出向を断って工場の片隅で燻るか、会社を辞めて親父の持ってた猫の額ほどの田んぼを手伝うことも考えたけど、なんとかなるさ！ってことで3週間後にはホノルルの土を踏んでました。これ、自発的ではないにしても僕にはチャレンジでした。

そして営業部門に移れと言われた時。元来、内気な性格の私が、言葉巧みにしゃべり続けるアメリカ人と勝負出来るのか？いっそ、サービスマネージャーで来て欲しいと云って呉れてる販売店さんに転職するかな？とも考えましたが、いやいや、売ってるのは電器商品だ、技術を知ってる分だけ有利なはずだ。それに、ここはハワイだ、販売店はパパママショップで気心の知れた人たちだから何とかなるだろう！ってことで社内転職。その後、マーケットが大きく変化して行くに連れて販売方法もアジャスト出来たのも僕にはチャレンジ。

でも一番辛かったのは現役最後の10年、負のチャレンジを繰り返さざるを得なかったことです。2000年頃から市場環境が激変。会社はその対応に四苦八苦。お陰で事務所はリストラに次ぐリストラ。2000年には40数名いた従業員が2010年には数名にまで激減。最後は僕とアシスタントの2人になって結局、事務所を閉める羽目になりました。当然、仕事は多くなり幅広くなって行き、順応の日々ではありましたが、現役時代の前半が正のチャレンジなら、最後は負のチャレンジになったのは残念でした。

それでも何とかリタイア出来る年齢まで仕事を続けることが出来たのは僕のチャレンジ精神のお陰と云いたいけど、結局、周りに素晴らしい人たちがたくさん居て導いてくれたからだと感謝しています。特に新居浜高専の先生方や同期生や後輩の皆さん。そして日本とハワイのM社、いや、今はP社の皆さんに感謝、感謝です。

そんな思いを胸に、これからは人生100年時代に順応して「生涯青春」にチャレンジして行きます。



我が人生に大きく影響した  
松下幸之助翁の言葉



松下幸之助翁ハワイ訪問  
の際に新製品の紹介



アラモアナビーチパーク  
現在の散歩コース